

モノとデキゴトに基づく 時空間の認識

定延利之

1

謝辞

この発表は、日本学術振興会の科学研究費補助金による基盤研究（(S)20H05630, 研究代表者：定延利之）、国立国語研究所共同研究プロジェクト「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」の成果を含んでいる。

2

研究の沈滞状況

- ・「ムードのタ」について
「事実はずでにこれまでにほとんどあげつくされていると思われる」
[寺村秀夫 1984 『日本語のシンタクスと意味II』東京：くろしお出版, p. 105.]
- ・テンスとムードの関係について
「標準語だけに限ればほぼ事実はおぼろげに出揃ってしまっている」(p. 27)
[工藤真由美 2002 「文法（理論・現代）」『国語学』第53巻, 第4号, pp. 22-29.]

3

沈滞状況を打破するための基本方針

- ・「テンス・アスペクト・ムードの世界に沈滞」せず、外部領域の現象との共通点を積極的に探る。
[定延利之 2021 「第1部 導入」益岡隆志（監修）、定延利之・高山善行・井上優（編）『【研究プロジェクト】時間と言語文法研究の新たな可能性を求めて』pp. 2-14, 東京：ひつじ書房]
- ・考察対象とする表現の状況に応じた自然さ～不自然さを重視する。
[井上優 2001 「現代日本語の「タ」—主文末の「...タ」の意味について」つくば言語文化フォーラム(編)『「た」の言語学』pp. 97-163, 東京：ひつじ書房]

4

考察対象

時間表現の研究は圧倒的に「テンス・アスペクト・ムード」研究。ここでは、それ以外の時間表現に目を向けてみる。

- 時刻の表現：「2022年」「2月」「20日」...
- 期間の表現：「3時間」「3日」「この数年」「夏じゅう」...
- 間隔の表現：「1年おき」「1時間おき」...
- 終期の表現：「14日まで」「親が戻ってくるまで」...
- 期限の表現：「明日までに」「夏のあいだに」...

5

webページを介したアンケート調査

	第1回	第2回
実施時期	2021年8月	2021年12月
回答者数（日本語母語話者）	95名	117名
性別	男性58名・女性37名	男性53名・女性64名
年齢	10代 1名 20代 16名 30代 17名 40代 18名 50代 17名 60代 26名	10代 1名 20代 18名 30代 24名 40代 19名 50代 18名 60代 24名 70代以上 13名

中国語のデータの自然さ判断は定延(2003)・定延(2013)による。

6

時刻単位の2分

大規模類の時刻はモノ。小規模類の時刻はデキゴトの目盛。

	「N-大規模類」	「N-小規模類」
例	「±N世紀」「N年」「N月」 「第N週」「(第)N日」「N回」 「Nラウンド」	「N時」「(N,時)N,分」 「(N,時)N,分)N,秒」
計測ツール	年表・カレンダー	時計
時間幅	有	無 ※1
初期値	1	0

(N: 自然数)

※1 日常生活のルースな感覚は除外。ロケット打ち上げの時刻などを想定。

13

変化動詞と期間表現

- (1) a. 店の看板が倒れた。
 b. ?店の看板が3時間倒れた。
 c. 店の看板が3時間倒れていた。
 変化動詞と期間表現は共起しない [三原1997・金水2000]
 d. 台風シーズンで、今週は店の看板が3日倒れた。

(1)	1点	2点	3点	4点	5点	計	平均値	分散	標準偏差	中央値
a	10	11	20	20	56	117	3.86	1.79	1.34	4
b	60	39	10	6	2	117	1.73	0.89	0.94	1
c	11	13	17	30	46	117	3.73	1.86	1.36	4
d	26	27	25	19	20	117	2.83	1.95	1.40	3

Wilcoxon signed-rank sum test

14

集合的なイメージング

集合的なイメージング(collective imaging): 1つのモノを細分して、複数個の小さなモノの集まりのようにとらえること。[定延2013]

- (2) a. 这几年一直都很暖和。
 b. ??今天一直都很暖和。
 c. 今天从早上到晚上一直都很暖和。
 (3) a. この数年はずっと暖かった。
 b. 今日はずっと暖かった。

(3)	1点	2点	3点	4点	5点	計	平均値	中央値
a	10	14	22	25	24	95	3.41	4
b	9	16	18	29	23	95	3.43	4

n.s. $p = 0.710$, MacNemar test

15

集合的なイメージング (空間表現)

- (4) a. 诶, 怎么净是台阶呀?
 b. ??诶, 怎么净是坡呀?
 (5) a. ちょっとどうなってるの, 階段ばかりじゃない。
 b. ちょっとどうなってるの, 坂ばかりじゃない。

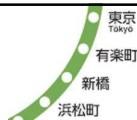
(5)	1点	2点	3点	4点	5点	計	平均値	中央値
a	9	15	19	29	23	95	3.44	4
b	4	13	19	29	30	95	3.72	4

n.s. $p = 0.190$, MacNemar test

16

初期値 (空間表現)

- (6) a. 落雷で、東京駅から3駅停電した。
 b. 東京駅を狙ってダーツを投げたが、結局、東京駅から3駅ずれた。



適合度検定

(6a)	東京駅は停電した	東京駅は停電しなかった	計	統計量	自由度	1%点	5%点	p値
	104	12	116	72.97	1	6.63	3.84	0.000
(6b)	ダーツは新橋駅	ダーツは浜松町駅	計	統計量	自由度	1%点	5%点	p値
	11	105	116	76.17	1	6.63	3.84	0.000

MacNemar test

モノ (停電した主体) なら、初期値は1 (=最初の該当例)。
 デキゴト (ダーツがずれる) の程度なら、初期値は0 (=該当しない)。

<https://rp-tj.blogspot.com/2020/02/yamanote-line-map.html>

17

初期値 (程度表現)

- (7) a. 身長が120センチ以上なら、このジェットコースターは乗れます。
 b. 私はAさん以上に愛されたい。

(7a)	120センチは乗れる	120センチは乗れない	計	統計量	自由度	1%点	5%点	p値
	93	1	94	90.04	1	6.63	3.84	0.000
(7b)	A氏と同等で満足	A氏と同等で不満足	計	統計量	自由度	1%点	5%点	p値
	13	75	88	43.68	1	6.63	3.84	0.000

MacNemar test

モノ (身長) なら、初期値は1 (=最初の該当例)。
 デキゴト (愛される) の程度なら、初期値は0 (=該当しない)。

18

終期・期限表現の曖昧性

終期・期限を大規模類で表現する場合、「その大規模類の最後の瞬間が終期」なのか（モノ）、それとも「その大規模類の開始直前が終期」なのか（デキゴト）という曖昧性が生じる。

終期 (13) a. **14日まで**が休みです。

b. **14日になるまで**休みます。

		適合度検定						
(13)	14日は休みである	14日は休みでない	計	統計量	自由度	1%点	5%点	p値
a	90	2	92	84.17	1	6.63	3.84	0.000
b	29	42	71	2.38	1	6.63	3.84	0.123

期限 (14) **明日までに**間に合わせます。

		適合度検定						
(14)	明日じゅうである	今日じゅうである	計	統計量	自由度	1%点	5%点	p値
a	49	46	95	0.09	1	6.63	3.84	0.758
b								

25

直示性はデキゴト的解釈をサポート

終期 (15) a. **明日まで**じっとしていなさい。

b. [21日に] **22日まで**じっとしていなさい。

		適合度検定						
(15)	明日も安静に	今日だけ安静に	計	統計量	自由度	1%点	5%点	p値
a	54	41	95	1.78	1	6.63	3.84	0.182
b	68	27	95	17.69	1	6.63	3.84	0.000

期限 (16) a. **明日までに**間に合わせます。 = (14)

b. [21日に] **22までに**間に合わせます。

		適合度検定						
(16)	明日じゅうである	今日じゅうである	計	統計量	自由度	1%点	5%点	p値
a	49	46	95	0.09	1	6.63	3.84	0.758
b	60	35	95	6.58	1	6.63	3.84	0.010

26

サポートの原因

レベル	モノ	デキゴト
1 毎瞬間に生じる	—	+ (環境の経験)
2 環境内での兼弁な認知	+ 「～がある／何もない」	+ 「～が起きている／何も起きていない」
3 季節的の中／不的中	+ (例「手帳がある／ない」)	+ (例「雨が降っている／いない」)

直示表現の自己中心性は、レベル1のデキゴトの前提。

レベル1がレベル2を活性化？

27

終期と期限

(17) a. **親が戻ってくるまで**家事をした。

b. **親が戻ってくるまでに**家事をした。

		適合度検定						
(17)	終期： 親が戻り家事終了	期限： 親が戻る前に家事	計	統計量	自由度	1%点	5%点	p値
a	89	27	116	33.14	1	6.63	3.84	0.000
b	19	98	117	53.34	1	6.63	3.84	0.000

(18) a. **8時まで**家事をした。

b. **8時までに**家事をした。

		適合度検定						
(18)	終期： 8時で家事終了	期限： 8時の前に家事	計	統計量	自由度	1%点	5%点	p値
a	90	27	117	33.92	1	6.63	3.84	0.758
b	19	98	117	53.34	1	6.63	3.84	0.010

28

並行的な意味関係（空間表現・程度表現）

(19) a. この海域**中（じゅう）**に財宝が埋まっている。

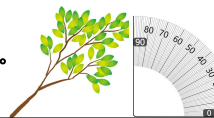
b. この海域**中（ちゅう）**に財宝が埋まっている。

		適合度検定						
(19)	全称量化： 財宝は至る所に	存在量化： 財宝は最低1か所	計	統計量	自由度	1%点	5%点	p値
a	92	3	95	83.38	1	6.63	3.84	0.000
b	16	79	95	41.78	1	6.63	3.84	0.000

(20) 「倒れる」の2義

a. まだ**倒れて**いない。

b. わずかにせよ**倒れた**ことは確かだ。



<https://illustration.download/archives/14781>
<https://ieben.net/yousi/bundoki/pdf/90-han.pdf>

29

全称量化と存在量化の表現形式の類同

(21) a. 私は**夏じゅう**その仕事に取り組む。

b. 私は**夏じゅう**にその仕事に取り組む。

		適合度検定						
(21)	全称量化（終期）： 夏と仕事は同時終了	存在量化（期限）： 夏が終わる前に仕事	計	統計量	自由度	1%点	5%点	p値
a	89	6	95	34.20	1	6.63	3.84	0.000
b	25	70	95	21.32	1	6.63	3.84	0.000

(22) a. 私は**夏のあいだ**その仕事に取り組む。

b. 私は**夏のあいだ**にその仕事に取り組む。

		適合度検定						
(22)	全称量化（終期）： 夏と仕事は同時終了	存在量化（期限）： 夏が終わる前に仕事	計	統計量	自由度	1%点	5%点	p値
a	82	13	95	50.12	1	6.63	3.84	0.000
b	26	69	95	19.46	1	6.63	3.84	0.010

30

中国語は全称量化の語彙の有無

- (23) a. 在这片海域中到处都沉睡着宝藏。 (21a)「海域じゅう」
 b. 在这片海域中沉睡着宝藏。 (21b)「海域ちゅう」
- (24) a. 我整个夏天都工作。 (22a)「夏のあいだ」
 b. 我在夏天工作。/我夏天的时候工作。(22b)「夏のあいだに」

集会的なイメージングに関して消極的な中国語では、全称量化と存在量化はさほど似ていない。

31

量化と統語的環境

- (25) a. 今日は8時までの仕事があるから、帰りは遅くなる。
 b. もう6時だ。8時までの仕事に間に合いそうにない。同僚の助けを借りよう。

(25)	1点	2点	3点	4点	5点	計	平均値	分散	標準偏差	中央値
a	7	13	17	24	34	95	3.68	1.67	1.29	4
b	2	6	16	31	40	95	4.06	1.04	1.02	4

- (26) a. この仕事は夏じゅうだ。だから、他の仕事は秋まで受けられない。
 b. この仕事は夏じゅうだ。秋にずれ込むことは許されないが、がんばって早めに終われば、新しい仕事を夏のうちから始められる。

(26)	1点	2点	3点	4点	5点	計	平均値	分散	標準偏差	中央値
a	9	20	25	24	17	95	3.21	1.53	1.24	3
b	8	11	21	32	23	95	3.54	1.49	1.22	4

32

まとめ 1/2

- 日本語母語話者の時間認識は、モノとデキゴトの認知とつながっている。大規模な時間単位はモノとして、小規模な時間単位はデキゴトの目盛として認知される(時間幅の有無, 初期値)。このことは変化動詞と期間表現の共起可能性にも影響を与える。初期値に関するモノとデキゴトの違いは、時間表現だけでなく空間表現や程度表現にも見られる。
- 大規模な時間単位(モノ)の個数に関して、中国語は敏感だが、日本語はそうではない(“一直”と「ずっと」)。こうした違いの背景にあるのは、集会的なイメージングに関して、日本語は積極的だが中国語は消極的という違いである。集会的なイメージングに関する両言語の違いは、時間表現だけでなく空間表現にも見ることができる(“淨”と「ぼっかり」)。

33

まとめ 2/2

- 年齢、月齢、駅の間隔の表現に共通するのは、モノのイメージからデキゴトのイメージへとという歴史的な推移(初期値1→0)。
- 間隔の認知は、間隔を表現する言語(大規模類か小規模類か、語句の意味)や、間隔を構成するモノの個数に影響される。
- 終期や期限を大規模類で表現する場合、モノかデキゴトかという曖昧性が生じる。直示性はデキゴト的な解釈をサポートする。終期・期限の表現は、名詞性の統語環境に置かれることで、存在量化の解釈がサポートされる。
- 終期と期限は、全称量化・存在量化に一般化できる。全称量化と存在量化の表現形式が日本語において酷似し、時に一致するのは、集会的なイメージングに関する日本語の積極性による。これに消極的な中国語は表現形式が大きく異なる。

34

言及文献 1/2

- 池上遼彦 1981 『「する」と「なる」の言語学：言語と文化のタイポロジーへの試論』東京：大修館書店
- 井上ひさし 1993 『ニホン語日記』東京：文芸春秋
- 石塚晴通 1970 「新橋駅は東京駅から二つめか？三つめか？」森岡健二・永野實・宮地裕(編)『講座正しい日本語第4巻 語彙編』pp. 241-246, 東京：明治書院
- 金水敏 2000 「時の表現」金水敏・工業真由美・沼田善子『日本語の文法2 時・否定ととりたて』pp. 3-92, 東京：岩波書店
- 益岡隆志 1987 『命題の文法：日本語文法序説』東京：くろしお出版
- 三原健一 1997 「動詞のアスペクト構造」葛尾健一・三原健一『日英語比較選書7 ヴォイスとアスペクト』pp. 107-196, 東京：研究社出版
- 中川正之 1992 「観測論からみた中国語、日本語、英語」大河内康彦(編)『日本語と中国語の対照研究論文集(上)』pp. 3-21, 東京：くろしお出版
- Sadanobu, Toshiyuki. 1995. "Two types of event models: Billiard-ball model and moldgrowth model." *Journal of Cross-Cultural Studies*, 4, pp. 57-110.
- 定延利之 2000 『認知言語論』東京：大修館書店

35

言及文献 2/2

- 定延利之 2002 「『インタラクションの文法』に向けて：現代日本語の発音エビデンシャル」京都大学言語学研究会編纂委員会(編)『京都大学言語学研究』第21号, pp. 147-185.
- 定延利之 2003 「インタラクションの文法、形態の文法」『中国語学』第250号, 日本中国語学會, pp. 250-263.
- 定延利之 2008 『価値の文法：体験を語りたがる人びとの欲望が日本語の文法システムをゆさぶる話』東京：筑摩書房【増補版 東京：凡人社, 2016】
- Sadanobu, Toshiyuki. 2010. Event model without time shift. *Studia Universitatis Babeş-Bolyai Philologia*, Vol. 55, No. 3, pp. 19-33.
- 定延利之 2013 「量化の意味への言語的手がかり」木村英樹教授還暦記念論叢刊行会(編)『木村英樹教授還暦記念中国語文法論叢』pp. 332-351, 東京：白帝社
- 定延利之 2020 「アスペクトを超えたタとテイル」『漢日語言対比研究論叢』第11輯, pp. 19-56.
- 定延利之・高山善行・井上廣(編) 2021 『【研究プロジェクト】時間と言語：文法研究の新たな可能性を求めて』第1部, 東京：ひつじ書房
- 高橋誠 2011 『かけ算には順序があるのか!』東京：岩波書店
- 寺村秀夫 1976 「【ナル】表現と【スル】表現：日英【動】表現の比較」寺村秀夫論文集刊行委員会(1993編)『寺村秀夫論文集：言語学・日本語教育編』pp. 213-232, 東京：くろしお出版

36